

東与賀まちづくり 第2次夢プラン案



平成31年4月16日
東与賀まちづくり第2次夢プラン案検討会



第2次夢プラン案がめざすもの

東与賀まちづくり第2次夢プラン検討会では、みんなが無理なく、楽しくまち協に参加できるようになることで、第2次夢プランが終了する5年後には『ひとのつながりが見える東与賀』となっていることを目標に第2次夢プラン案を作成しました。また、第2次夢プランを検討するにあたり、プラン案全体を支える考え方として3つの方向性を定め、その方向性を柱とし検討・協議を行いました。

＜第2次夢プラン案 検討のための3つの方向性＞

方向性Ⅰ 次の世代を育むことをもりこむ 次の東与賀を担う人が育つことはまちづくりが継続していくための原動力となります。現在も小学生や中学生へ干潟体験、出前講座などを実施し、東与賀の歴史や魅力を伝えています。第2次夢プラン案では小・中学生に加え20代、30代の世代に働きかけ、即戦力として時代に沿った活動・取り組みに加わることを意識しました。

方向性Ⅱ 活動しやすくする まち協ですでに活動している人だけでなく、まち協を構成する団体のメンバー、東与賀に住んでいる人、仕事をしている人など、東与賀に関わる全ての人が「何か東与賀でやってみたい！」と思った時にそれを実現しやすくなるような仕組みづくりを意識しました。

方向性Ⅲ わかりやすくする 東与賀まちづくり協議会の事業がまだまだ浸透していないという現状を重く受け止めました。夢プランや活動をより広く、より多くの人に知ってもらうための「見て、わかること」「ワクワク楽しくなる」工夫を意識しました。

第2次夢プラン案は、「夢プランを推進する力(仕組み)」と「夢プランの実行(活動)」の2つの面から検討をしました。夢プランを推進する力(仕組み)では各役割を明らかにすることにより、誰か特定の人にだけ負担がかかりすぎないようにすることができるよう考えました。加えて、部会同士、部会と地域団体、まち協と地域や若い世代などが一緒に活動するための窓口や情報交換の機会(座談会など)を年間の仕組みの中に組み入れることも考えました。さらに、PDCA サイクル※でまち協事業の検証・修正をしながら常に進化し続ける仕組みも提案しています。

第2次夢プラン案では、あえて詳細な活動・取り組みを記載していません。その代わりに5年後に向かう5つの目標を設定しました。5つの目標に近づくため部会や構成団体がそれぞれの強みを活かしてどのような活動・取り組みをしてくことが東与賀にとって最もよい効果を発揮するのかを、全体で協議・検討していく必要があると考えたからです。また、まち協に関わる人が同じ目標を見て活動・取り組みを進めることで一体感が生まれることを期待しました。

第2次夢プランは「自然豊かであふれる笑顔と思いやりのまち 東与賀」という大きな目標により近づくための次の一歩であるという第2次夢プラン検討会の思いを込めてここに提案いたします。

※PDCA サイクルとは活動などを改善していく手法のひとつで、Plan(計画)・Do(実行)・Check(検証)・Action(改善)の頭文字で示しています。このPDCA サイクルを活用することで、活動・取り組みの途中であっても状況にそった良いものへと進めることができるようになります



目次

第2次夢プラン案＜活動編・全体図＞	3
第2次夢プラン案＜活動編・第2次夢プラン5つの重点目標＞	4
第2次夢プラン案＜第2次夢プランを一緒に進める仲間＞	6
第2次夢プラン案＜第2次夢プランを地域とともにみがき上げる仕組み＞	7
第2次夢プラン案＜第2次夢プランに向けたまちづくり協議会の組織体制＞	8
第2次夢プラン案＜仕組み編・まちづくり協議会の役割＞	9
第2次夢プラン案＜仕組み編・検討、協議の流れ＞	10
第2次夢プラン案＜仕組み編・実行手順案＞	11



第2次夢プラン案<活動編・全体図>

■ **開始から概ね3年までの期間**をめぐり「協働」を含めて活動・取り組みを進める。活動内容やスケジュールの修正に加え、これまでの課題なども整理していく

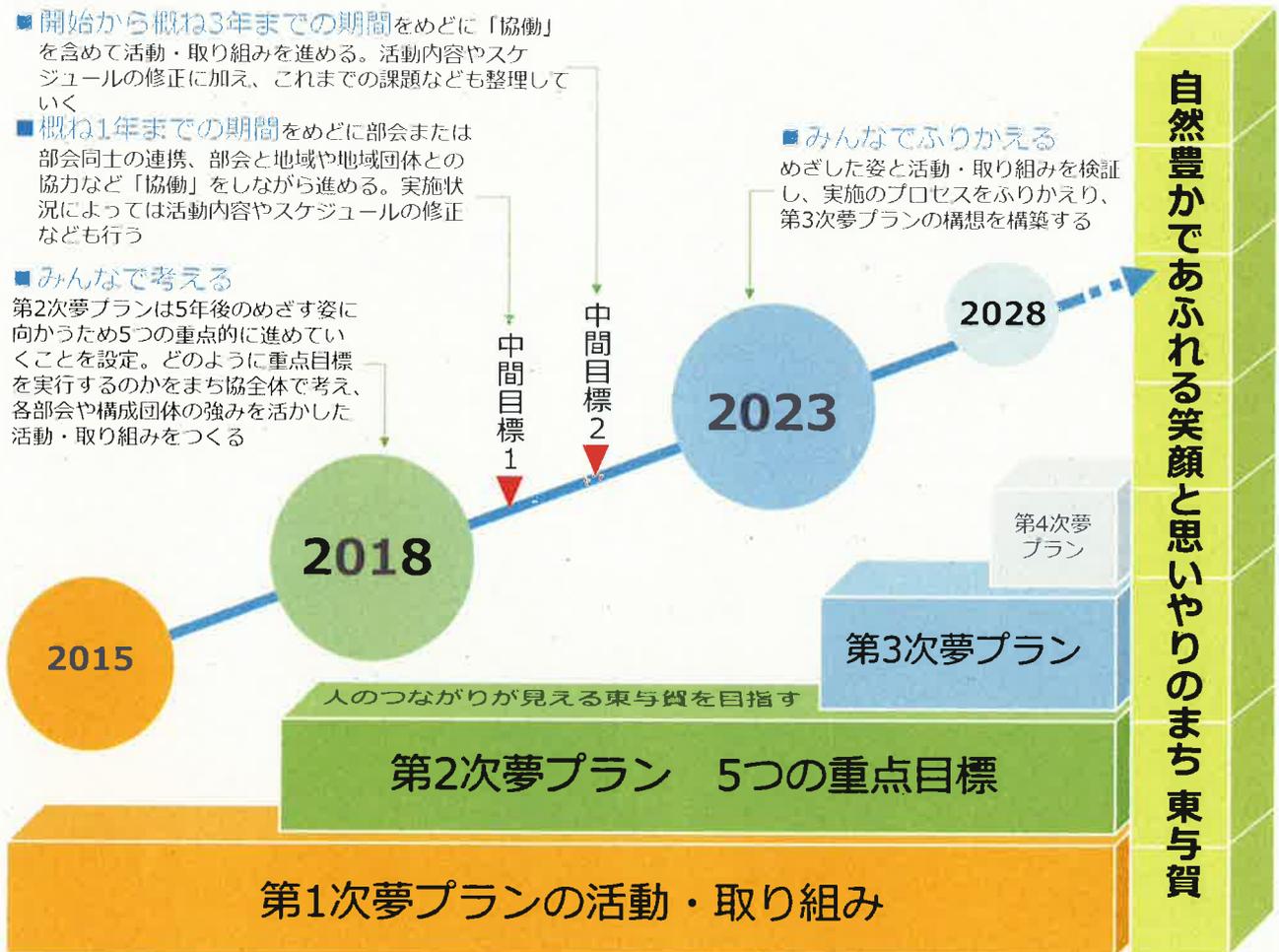
■ **概ね1年までの期間**をめぐり部会または部会同士の連携、部会と地域や地域団体との協力など「協働」をしながら進める。実施状況によっては活動内容やスケジュールの修正なども行う

■ **みんなで考える**

第2次夢プランは5年後のめざす姿に向かうため5つの重点的に進めていくことを設定。どのように重点目標を実行するのかをまち協全体で考え、各部会や構成団体の強みを活かした活動・取り組みをつくる

■ **みんなでふりかえる**

めざした姿と活動・取り組みを検証し、実施のプロセスをふりかえり、第3次夢プランの構想を構築する



第1次夢プランの活動・取り組みを知る・考えることから第2次夢プランを検討しました。第1次夢プランからまち協のみなさまがやってこられた活動をしっかりと受け止め、「次世代に残すモノ」「変化させ進化させるモノ」「新たなつながりが持てるモノ」を町民全体で考え、『自然豊かであふれる笑顔と思いやりのまち 東与賀』に向けて共に歩むためには、どのようなプランにしていくのかを真剣に議論し、各夢プランが積み重ねりながら更新していく仕組みを考えました。

今回、第2次夢プランでは『人のつながりが見える東与賀になっている』という5年後の大目標を立て、さらにそのための5つの重点目標を設定しました。5年後の2023年の目標達成に向けて、部会同士の連携や地域との「協働」をします。中間確認をすることで活動内容やスケジュールの修正なども行い、5年後には第2次夢プランの取り組みについて検証し、次の夢プランにつなげ、東与賀全体で考えられる仕組みをつくり上げたいと考えます。

▶ **ここがポイント** ▶▶▶

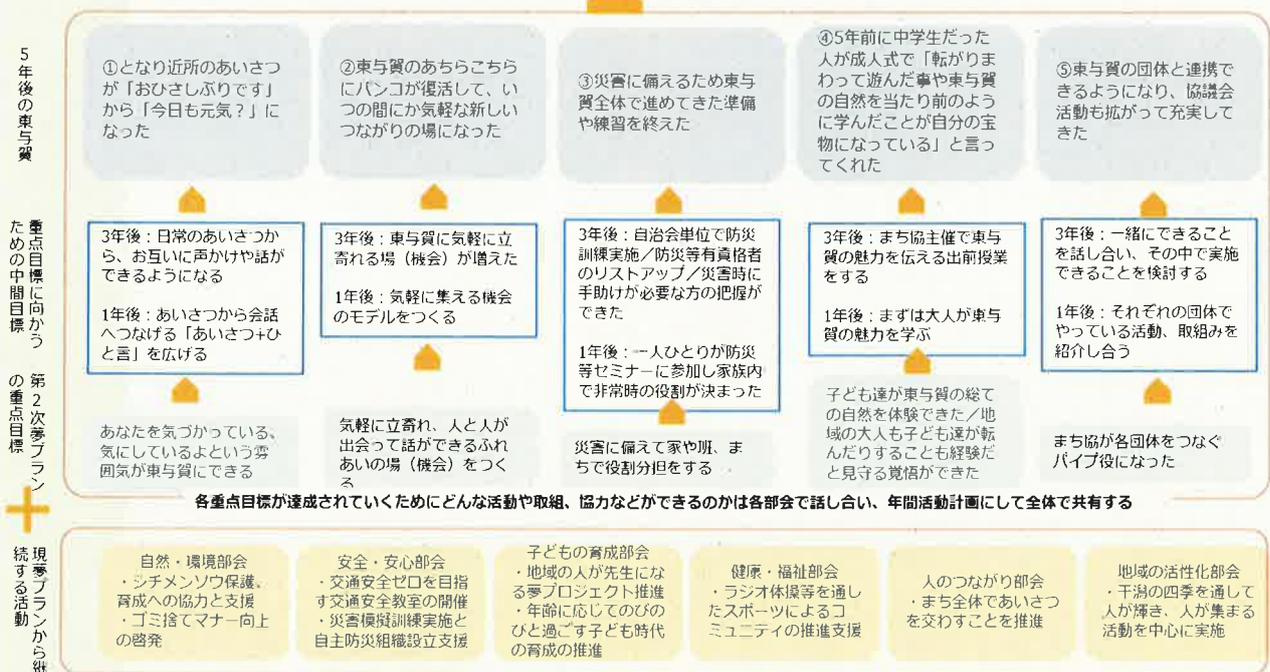
プランで実施した活動・取り組みを東与賀まちづくり協議会の財産として積み重ねながら『自然豊かであふれる笑顔と思いやりのまち 東与賀』に向けて進みます



第2次夢プラン案<活動編・第2次夢プラン5つの重点目標>



人のつながりが見える東与賀になっている



第2次夢プランは5年後、「人のつながりが見える東与賀になっている」に向けた5つの重点目標と現在の夢プランから引く継ぐ活動・取り組みの2段階構成です。2015年からの積み重ねをまち協の財産・資源とし、第2次夢プランはその強みを元に、まち協全体で話し合いながら活動・取り組みを決定していくことを想定しています。そのため、第1次夢プランのような具体的な活動・取り組みはあえて記載しませんでした。

※第1次夢プランからの継続について

第2次夢プランを検討するにあたり現在の活動状況の把握を行ったところ、まち協が主体の活動と団体が主体の活動が混在していることが明らかになりました。そこで、まち協が主体となる活動とまち協がその活動を支援するものに分類・整理し、目指す東与賀の姿、事業目標に照らし合わせ、継続する活動を第2次夢プランに掲げています。

▶ここがポイント▶▶▶

まち協も地域も同じゴール（5つの重点目標）を目指して、どんな活動・取り組みが必要か、を一緒に考えます

■今後5年間で進める重点目標

重点目標1 『隣近所のあいさつが「お久しぶりです」から「今日も元気？」になった』

平成30年、東与賀の地区で孤独死後、約10日間過ぎて発見されるという案件が発生しています。身の回りのお互いの気配を感じられるような環境をつくっていくことがまち協の使命であると考えました。まずは日常のあいさつから始め、5年間のうちにご近所のことを気づかう関係性の構築をします。

重点目標2 『東与賀のあちこちにバンコが復活して、いつの間にか気楽な新しいつながりの場になった』

中学生が参加した座談会の楽しさ、活気を日常の風景としていきたい、というところからこの目標を考えました。かつて佐賀のあちこちにあったバンコのように、どこかの建物や部屋でもなく、気楽に立ち寄れて話ができる機会づくりに取り組みます。

重点目標3 『災害に備えるため東与賀全体で進めてきた準備や練習を終えた』

自然災害の発生で想定外はもう通用しません。例えば地震が、例えば風水害があったとしても慌てず助け合いながら行動していくための準備にとりかかり、地域の安全安心を地域全体で補完する取り組みを行います。

重点目標4 『5年前に中学生だった人が成人式で「転がりまわって遊んだことや東与賀の自然を当たり前のように学んだことが自分の宝物になっている」と言ってくれた』

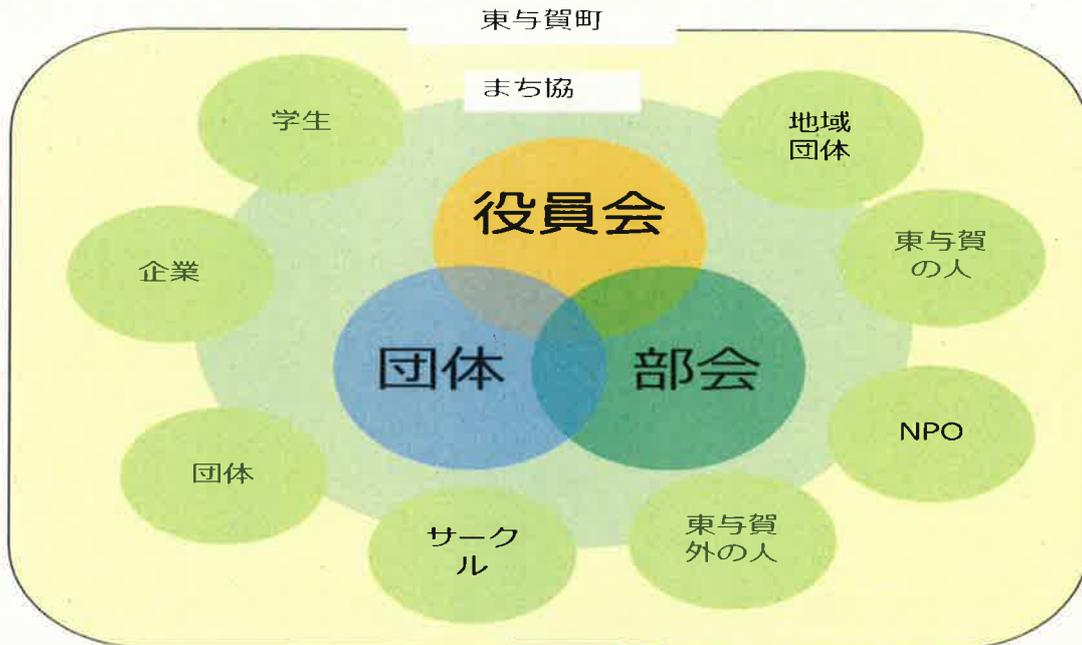
自然あふれる東与賀の魅力を十分に知らせていくことが、ひいては次の東与賀を担う人財の育成につながります。思い出と記憶に残る子ども時代を過ごしてもらうため、地域の大人も全力でサポートをしていきます。

重点目標5 『東与賀の団体と連携できるようになり、協議会活動も広がって充実してきた』

東与賀の住民、企業、団体が協力して動くことではじめてまちづくりが効果的に動いていくと考えます。まち協はそのつなぎ役となり、まち協活動の充実だけではなく東与賀全体の信頼関係の構築の一翼を担っていきます。



第2次夢プラン案<第2次夢プランを一緒に進める仲間>



第2次夢プラン

人のつながりが見える東与賀になった

まち協が地域活動のつなぎ役(プラットフォーム)となることを第2次夢プランでは目指します。

つなぎ役(プラットフォーム)として東与賀の活動の中心に位置し、東与賀で活動する団体・企業等と一体となって、よりよい東与賀に向けて動くための働きかけを進めます。例えばまち協と団体、または団体同士がつながるお手伝いをします。さらに団体の活動の相談や支援なども行い、まち協が頼られる存在になることを目指します。

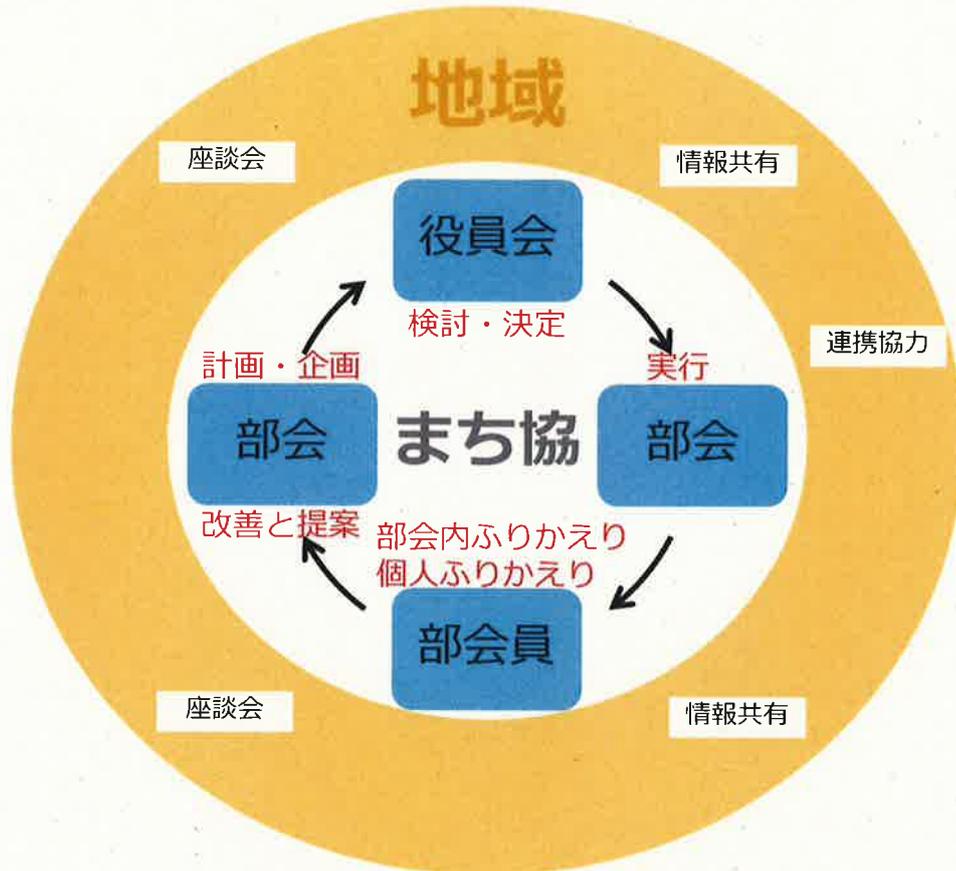
まちづくりはまち協だけでできるものではないと考えます。それぞれの団体が自分の強みを発揮し、みんなで同じ目標を持って共に歩いてこそ、地域課題の解決につながります。第2次夢プランの5年の間に、東与賀のみんなと一緒に5年後のゴールに向かって進めるよう、地域活動のつなぎ役としての意識を深めていきたいと考えました。

▶ここがポイント▶▶▶

まち協は東与賀の各種団体や企業、学生などの地域活動の相談を受け、支援をしていくことで、地域の中で頼られる存在になります



第2次夢プラン案<第2次夢プランを地域とともにみがき上げる仕組み>



まち協の事業が地域と共に更新され続ける仕組みをつくることも、この第2次夢プラン案の大切な提案の一つです。キーワードは情報共有とPDCAサイクルです。

第2次夢プランを考えるにあたり、地域の方や中学生が参加した座談会を開催しました。その中でも「また、こんな話し合いの機会をつくってほしい」「たくさんのお話をみなさんと話せて楽しかった」という声を多くの方からいただきました。話をする機会があるだけでまち協の存在や活動・取り組みを知ってもらえることを発見しました。これからの5年間は積極的に地域との座談会や情報提供、情報収集を行いながら、連携・協力する信頼関係を構築していきます。

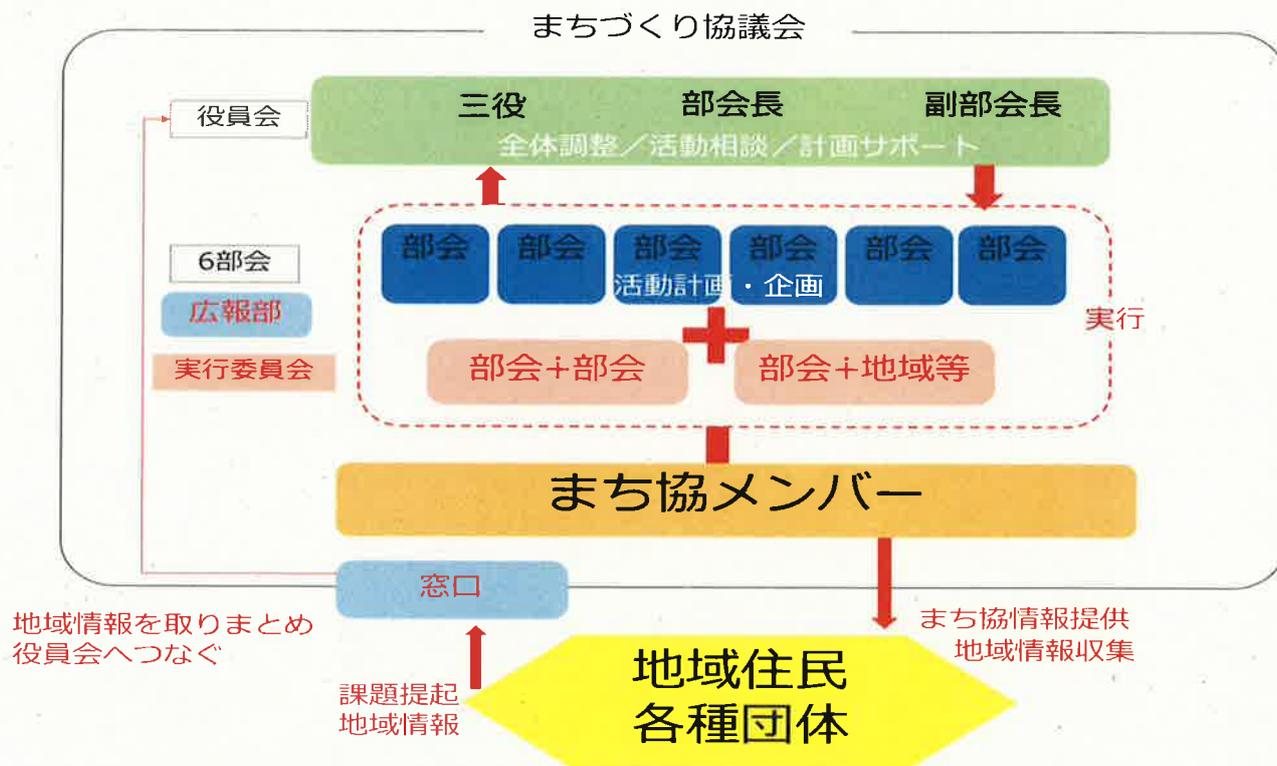
また、まち協は活動・取り組みを磨きあげ、社会背景や時代に対応する計画へと組み立てていくことが求められてくることが予測されます。そのためには活動・取り組みが実施して終了、とならないようにPDCAサイクルを活用していきます。

▶ここがポイント▶▶▶

まち協と地域が情報を共有し、考え、動く仕組みを進めます



第2次夢プラン案<第2次夢プランに向けたまちづくり協議会の組織体制>



円滑な事業推進に向け、まち協内の「情報の共有」と「見える化」はとても重要です。せっかくの活動が個別の活動だけにとどまらないよう、役員会を中心として情報共有と見える化を意識した調整を進めます。

これまでの“部会が部会の活動等を計画する”から、その活動はなぜ行うのか、活動によりどんなことを達成したいのかという活動目的を主体に考え、そのために必要となる部会の活動などを全体で検討します。このことにより、同じ目的を持つ部会がつながるだけでなく、まち協や部会を越え、地域と一緒に活動・取り組み行う実行委員会方式での動きなど協力・連携の範囲が広がります。さらに多様な視点も加わり、新たな企画や活動への発展が期待できます。

まち協を地域にアピールしていくためには情報発信は欠かせません。第2次夢プランでは『広報部』の設置を提案します。広報部は現在、総会で行っているような年間取り組みの報告などを東与賀の全ての方に伝えていきます。情報が一方通行にならないよう、東与賀に関わる方からはまち協の活動・取り組みがどのように東与賀に効果をもたらしているのか、さらに今、地域の中で問題だなと感じていることなどの地域情報を提供してもらい、収集していきます。このように双方の情報が循環する仕組みを『窓口』という役割で設定しました。窓口は、意見箱の設置と SNS※を想定しています。意見箱は公民館や児童館、小・中学校などに設置し、SNSはまち協メール(新規取得)でのやり取りを考えています。まち協の窓口を常に開いておくことで、まち協にはまだあまり馴染みのない方でも、気軽にいつでも思った時に自分の意見やアイデアを伝えることができる有効な方法だと考えます。

広報部や窓口により地域の方が情報を受け取りやすくなることでまち協への関心が高まり、結果、まち協への参加が増えていくことも期待しています。まち協と地域が共通の問題・課題意識を持つことは、一緒に課題解決に向けて活動をするチャンスでもあります。まち協メンバーから「今度こんなことするよ、一緒にどう？」と声をかけ、地域と共に行動することで、みんなのためのまち協であることをより広く知ってもらう機会になると考えます。

※SNS はソーシャルネットワークサービスの総称で、インターネットを介してコミュニケーションなどができるスマホ・パソコン用のウェブサービスを指します。



第2次夢プラン案〈仕組み編・まちづくり協議会の役割〉

主な役割	作業	東与賀まちづくり協議会
<ul style="list-style-type: none"> 外部団体等との渉外をする 予算等の管理をする 部会間で連携、協力ができるよう調整をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■会議開催 ■計画確認 ■実行管理 ■運営管理 ■相談 ■支援 ■地域交流 	<p>三役</p> <p>役員会</p> <p>部長 部長 部長 部長 部長 部長</p> <p>副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長</p>
<ul style="list-style-type: none"> 総会及び部会の開催をする 各部会の事業計画の承認をする 部会間の情報交換の場をつくる 部会間で話し合う場をつくる 部会の円滑な活動に向け相談や支援を行う 地域および外部団体窓口として相談等の受付をする 予算計画と執行を承認する 	<ul style="list-style-type: none"> ■記録 ■報告書 ■情報発信 ■会議開催 ■年間計画 ■交流実施 ■課題発見 	<p>部会</p> <p>自然・環境</p> <p>子どもの育成</p> <p>安全・安心</p> <p>健康・福祉</p> <p>人のつながり</p> <p>地域の活性化</p>
<ul style="list-style-type: none"> 活動、取組みの企画・立案をする 年間の方針を決め計画・実行をする 各活動、取組みごとに記録をつける 地域に向け、各活動や取組の案内と情報発信をする 活動、取組みの年間報告書案を作成し、役員会へ提出する 他部会との交流を行い、活動の協力・連携をする まち協以外の団体と積極的に交流を進める 活動、取組みごとにふりかえりを行い、課題と改善点をまとめ、役員会に報告する 経費報告 	<ul style="list-style-type: none"> ■相談受付 ■問合受付 ■メールチェック 	<p>(事務局)</p> <p>●人が常駐する時(持ち回りでひとり1時間程度を週に1回または専任者)</p> <p>●人が常駐しない時(意見箱の設置・回収 問合せメール、FAX、留守番電話など)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 外部から相談や問い合わせを受けける 外部からの相談や問い合わせを取りまとめて書面に起こし、役員会に提出する 	<ul style="list-style-type: none"> ■つながるさがしへの情報アップ 	<p>(広報)</p>
<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会の事業・取組みの告知や報告をする SNSやウェブ取を取り入れた新しい手法による東与賀の魅力の発信をする 		
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりを考え、意見交換をする まち協の事業や各部会の活動・取組みを所属団体に持ち帰り報告をする 一人ひとりが活動やまち協のことを自分の周囲に向けて発信する 一人ひとりが地域情報にアンテナを張り、地域の声や意見をキャッチして所属部会に報告する 		<p>構成員</p>

第2次夢プラン検討会では、まちづくり協議会の役割についても話し合いを重ね、特定の担当者に負担がかからないよう役割を明らかにすることが必要だと考えました。さらに、誰もがそれぞれにどんな役割があるのかわかる(見える化)ことで、人の入れ替わりがあったとしても戸惑わずに活動を進めていくことができます。

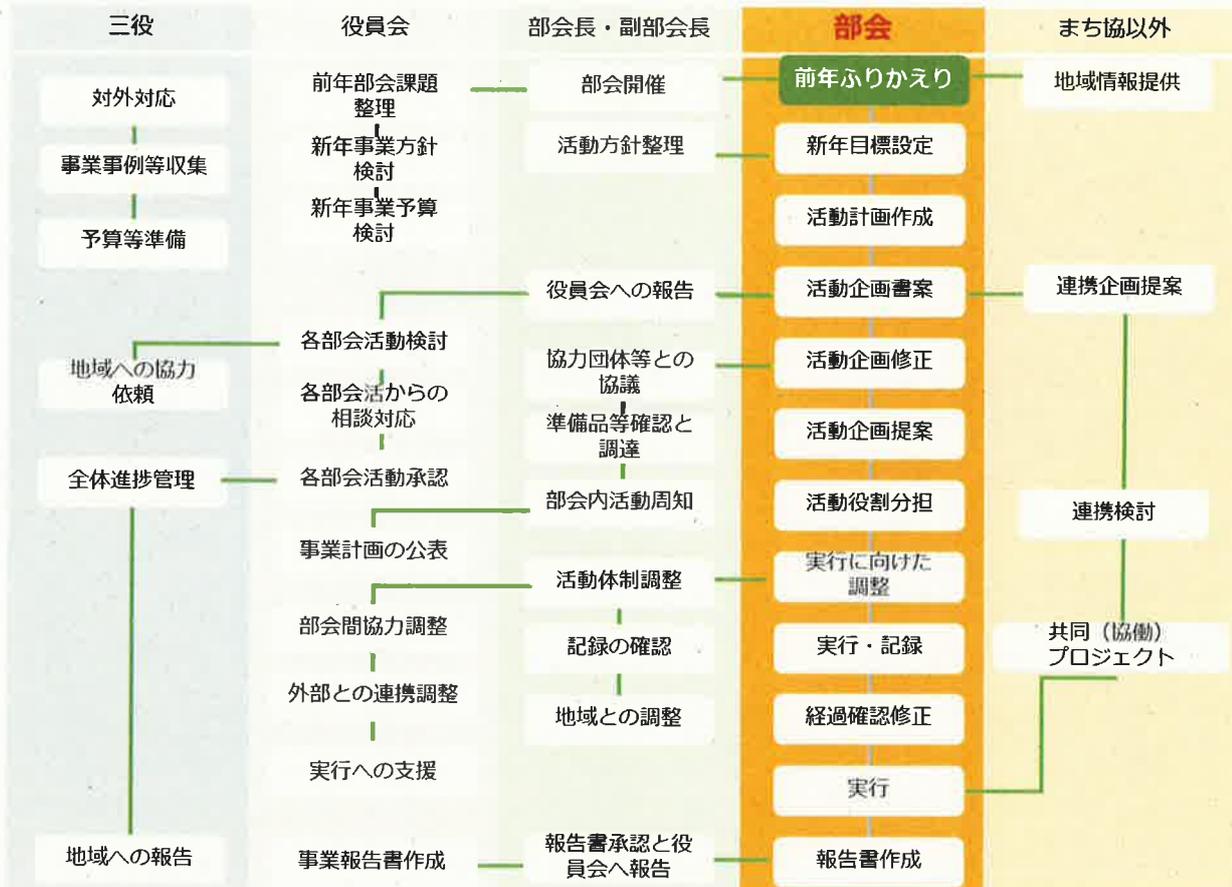
現在の6つの部会、役員会、三役に加え事務局と広報というこれまでは無かった2つを加えた構成で、役割を考えました。

三役の主な役割は外部とのやりとりと予算管理です。まち協全体を見守りながら部会間の連携や協力ができるよう調整を図ります。三役と部会長、副部会長からなる役員会はまち協で実施する活動情報がいちばん集まる場所でもあります。部会の計画や困りごとの把握と共有を行い、活動の調整や支援を進めます。部会は年間活動の計画と企画・実行を行います。加えて、活動記録と地域に向けた情報発信を担っていきます。随時、活動記録を残すことで課題や改善点が次年度に引き継がれやすくなると考えています。また、まち協を構成している一人ひとりにも役割があり、一人ひとりの行動こそがまち協の今後を左右する存在です。まずは自分の身近な人にまち協のことを話すことが、はじめの一歩になります。

事務局と広報は今後、さらに検討を経て設置の有無を含めて話し合いを進めていく必要があります。いずれも「新しい人の参加を呼び込む」「より地域の困りごとに役立つ活動に取り組む」「東与賀のファンを増やす」「まち協が広く認知されていく」ために必要なものだと、第2次夢プラン検討会では結論づけました。



第2次夢プラン案〈仕組み編・検討、協議の流れ〉



第2次夢プラン検討会では、事業の始まりから終了までのプロセスを「見える化」しました。

まち協の活動は部会からスタートします。まずは部会で前年の活動・取り組みのふりかえり、問題・課題や実施してきた活動等の成果などを整理した後、次の年度目標の話し合いへと進みます。役員会・三役は、部会メンバー間の話し合いが円滑に行われるよう、部会開催、それぞれの部会目標や活動計画などの相談支援をします。また、地域から上がってきた(意見箱、メール、相談など)情報や地域提案は役員会でとりまとめ、部会へ地域情報として提供します。さらに役員会は全体の進捗(進み具合)を見ながら年間計画の管理を担います。

このような一連の流れを「見える化」して公開・共有することで、次に何をしていくのかがはっきりとわかるようになります。次へのステップを確認しながら計画から実行までを安心して進められることにもなります。

▶ここがポイント▶▶▶

まち協に参加したその日から活動・取り組みに向けて動けるよう、すべての手順等を「見える化」し、マニュアルとして取りまとめます



第2次夢プラン案〈仕組み編・実行手順案〉



前ページ、〈仕組み編・検討、協議〉の流れをさらに詳しく示し、それぞれの場合でどのように対応していくのかをマニュアル化していきます。まずは予算承認をはじめとする代表的な項目について、手順・対応の「見える化」をします。

例えば、予算や計画は部会で行い、承認を役員会で行います。承認されなかった場合は役員会と一緒に再検討を行い修正したものを再提出します。活動や予算を一旦、役員会に集約することで活動の重複を防ぐだけでなく、多様な視点を加えた活動を促進することにもなります。また、役員会が主体となって、部会メンバーが部会の枠を超えて交流するための日程調整や周知などの流れをつくり、「楽しく無理せずにまち協が動いていくための仕組み」をつくっていきます。さらに役員会はこの他の団体からの協力依頼を集約する窓口にもなります。まち協の趣旨に照らし合わせ協力ができるかどうか、の可否を決定します。

このような手順・対応を踏むことにより、部会同士、まち協メンバー同士が情報を共有し、地域へ開かれたまちづくり協議会になっていくと考えます。今後も検討を重ね、順次、基準事例としてマニュアル化を進めていきます。

▶ここがポイント▶▶▶

情報の「見える化」と「情報の共有」はまち協のコミュニケーションを円滑にするだけでなく、まち協を地域に浸透させていく仕組みです